

# 1年ぶりのレースとなる全日本競歩高島大会で完全復活 山崎ロンドン五輪派遣標準突破



体育学校で本格的なトレーニングを再開させた山崎

## 全日本競歩高島大会

10月30日に山形県高島町で行われた第50回全日本50km競歩高島大会において、今年度自衛隊体育学校に入隊した、アテネ、北京オリンピック代表の山崎勇希2等陸曹が、ロンドンオリンピック標準記録を突破する3時間44分03の好記録で優勝。山崎は昨年のアジア大会を棄権して以来故障に苦しみ、実質的に8ヶ月間全く競歩ができない状態が続き、苦しいリハビリを経て、1年ぶりの公式戦となるこの大会で復帰。今回の記録は、今シーズン日本人ベスト、世

界ランキング9位となる記録で、山崎がメダル圏内の実力を有することを証明。今回標準記録を突破したので、後は来年4月の競歩日本選手権で2番以内に入ればオリンピック内定が確定する。

だが、山崎の目標はオリンピックでのメダルだ。メダル獲得のためには38分台が必要と山崎は考える。そのためには今以上の筋力アップと、警告を受けない歩形を作らなければならぬ。日本陸上界で最もメダルに近いのは山崎、それをアピールしたレースだった。

東日本実業団対抗駅伝 11月3日、埼玉県で行われた第52回東日本実業団対抗駅伝競走大会において自衛隊体育学校は3時間54分34秒、第11位の成績となり、来年度に行われるニューイヤーマラソン大会への出場権を獲得した。今大会では、1区の齊藤祐司陸士長が、日本マラソン界のエース日清食品の佐藤悠基選手や15000円の世界陸上代表、富士通の村上康則選手等が出場し、今までにないスピードレースとなったが、トップグループに仕上がらず、粘り強いレースをして、エース室塚健太3等陸曹に襷を渡すことができた。室塚は調子が悪いもののレースを崩さず、3区へリレー。世界陸上男子1万円で優勝したイブラヒム・ジェイラン(ホンダ)等がひしめく外人区の3区を岩瀬誠2等陸曹がしのいで、11位をキープ。4区以降、平成22年箱根駅伝優勝東洋大学駅伝チームキャプテン工藤正也陸士長から始まる酒井潤一2等陸曹、板垣辰矢2等陸曹、石田亮2等陸曹等の箱根駅伝ドリームチームが占めて、強豪ひしめく東日本を昨年の12位から一つ上げて11位でゴール。自衛隊体育学校チームは正月のニューイヤーマラソンに出場が決定。漸く箱根駅伝組が調子を整えてきて、レースを作れる状態になった。メンバーの実績だけ見れば、他の実業団に負けをとっている訳ではないので、ニューイヤーマラソンでは一層の奮起を期待したい。

# 体校ニューイヤーマラソン出場決定



東日本駅伝第2中継所、襷は1区齊藤から2区室塚へ

# 藤井2年ぶり優勝・近代五種



馬術競技、藤井のひたむきな努力が実った

## 近代五種全日本選手権

10月28〜30日の間、朝霞駐屯地及び東京世田谷馬事公苑で開催された第51回近代五種全日本選手権大会及び第2回女子近代五種全日本選手権大会において、男子では藤井真也3等陸曹が1年ぶり2度目の優勝を果たした。藤井は今年度の国際大会では不調が響き、派遣チャンスも少なかった。そのため、藤井は挽回すべく、この大会に対してひたむきに備えてきた。その苦勞が形となって現れた。これを

機会に日本が未だ獲得していない1枠を巡るオリンピック代表枠獲得争いに、藤井が再び復帰してこることが期待される。また、既にオリンピック出場権を獲得している富井慎一3等陸曹は怪我で調整が遅れ7位、史上初の女子出場権を獲得した山中詩乃陸士長はフェンシングで勝ち数を稼い

ず2位に終わる。山中にとっては今年の全日本選手権は国内の試合で全種目をこなした初めての大会となった。